

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

- ★最初のISS構成要素打上げから2762日経過しました
- ★第13次長期滞在クルーのISS滞在は73日経過しました
- ★ISS動向

第13次長期滞在クルーのパベル・ビンogradフとジェフリー・ウィリアムズ両宇宙飛行士は、6月2日の船外活動で使用したオーラン宇宙服と船外活動工具の後片付けを行いました。

米国時間6月7日にふたりは、船外活動で水素排気口を交換したロシアのエレクトロン(酸素発生装置)の再起動を試みました。何回か試した後、エレクトロンは稼働を始めましたが、約7時間後に停止しました。ビンogradフ宇宙飛行士は船外活動で交換した部分に関連する排気ラインを点検しましたが問題ありませんでした。同6月9日に再び試みた再起動も成功しなかったため、ロシアの専門家達は、原因は電源部の故障だと考えています。ビンogradフ宇宙飛行士が予備部品があることを確認したため、予備部品と交換してエレクトロンを再起動する予定です。

同6月9日の午後、プログレス補給船(22P)のドッキングに向け、プログレス補給船(21P)のスラスタを使ってISSのリブースト(軌道上昇)が行われ、ISSの高度は約1.6kmほど上昇しました。プログレス補給船(22P)は、カザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地から同6月24日に打ち上げられ、同6月26日にISSの「ピアース」(ロシアのドッキング室)にドッキングする予定です。現在、ピアースには古いプログレス補給船(20P)がドッキングしていますが、6月19日にISSから分離される予定です。



船外活動で使用した宇宙服を片付けるウィリアムズ宇宙飛行士(提供:NASA)

“スペースシャトル・ディスカバリー号(STS-121)準備状況”

米国時間6月8日、NASAジョンソン宇宙センター(JSC)にて、NASAプログラムマネージャは、STS-121ミッションの記者説明会を行いました。この説明会では、STS-121ミッションの概要や、飛行安全性向上のためにスペースシャトルや外部燃料タンク



説明会に参加するSTS-121クルー(提供:NASA)



記者説明会の様子(提供:NASA)



ETのモデルを使用し、改良点を説明するジョン・チョップマンETプロジェクトマネージャ(提供:NASA)

(External Tank: ET)の改良点について説明されました。STS-121クルーも参加し、ミッションに対する抱負などを語りました。

なお、米国時間6月12日から6月15日の間、NASAケネディ宇宙センター(KSC)にて、STS-121クルーと地上の管制要員は、打上げ当日の作業を確認するためのターミナル・カウントダウン・デモンストレーション・テスト(TCDDT)を行います。

“トピックス”

★コロンバス、NASAケネディ宇宙センターに到着

米国時間5月30日、ドイツから欧州宇宙機関(ESA)の実験棟である「コロンバス」(欧州実験棟)を載せたベルーガ輸送機が、NASAケネディ宇宙センター(KSC)に到着しました。コロンバスは、宇宙ステーション整備施設(Space Station Processing Facility: SSPF)に運ばれ、打上げに向けた準備が開始されます。スペースシャトルにより打ち上げられISSへ結合されるコロンバスでは、生命、物理、材料科学などの様々な実験が行われる予定です。



コロンバスを載せたベルーガ輸送機(提供:NASA)



ベルーガ輸送機から降ろされるコロンバス(提供:NASA)



SSPFへ運ばれるコロンバス(提供:NASA)



輸送用のキャリアから取り出されるコロンバス(SSPF内)(提供:NASA)

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。